

化血研 再稼働めど立たず

熊本・大分地震

化学及血清療法研究所
(化血研、熊本市)は21

日、熊本地震の影響について「生産設備・機械等に甚大な被害があることが判明し、当面の操業再開についてめどが立たない状況」であることを発表した。28日まで約半数の従業員で各設備などの安全点検作業を行う予定。化血研はボツリヌス毒素などの強い毒性

物質を取り扱っているが、外部への漏洩がないことを確認したという。

化血研は、血漿分画製剤、ワクチンなどの生産設備がある本所(熊本市北区、毒素関連施設の阿蘇支所(阿蘇市)、研究開発施設の菊池研究所(菊池市)が熊本県内にあるが、16日までに3カ所すべてで製造を中止した。

化血研の担当者によると、建屋自体は倒壊していないが、壁や配管工に亀裂が入るなどの被害を

持つ毒素製剤も製造している。担当者によると、これらが漏洩していないことを確認したという。

確認した。2次災害のリスクも考慮して、28日までは約半数の従業員で作業を行い、建物の安全確認ができたところから増員して復旧作業を進める。22日時点で従業員の人的被害は報告されていないという。

化血研はボツリヌス抗毒素製剤など強い毒性を

化血研は昨年、承認書と異なる方法で血液製剤などを製造してきたことが発覚し、今年1～5月初旬の期間で業務停止命令を受けている。ただ代替品がない製品などは停止対象から除外され血液製剤、ワクチン、抗毒素製剤など約8割の品目は製造を続けていた。